

講談と落語

講談も落語もともに伝統のある“話芸”であり、兄弟のような芸能といえます。講談は江戸時代の大道芸のひとつである辻講釈(つじこうしゃく)が原型といわれ、道具は釈台(しゃくだい)と張り扇。落語はてぬぐいと扇子を使用します。講談は張り扇で釈台をたたいて調子をとりながら歴史物語や人物伝などを読みあげます。



釈台

張り扇



パンパン!

落語には“講談師”が登場する演目がいくつかあります。この公演では、実際に講談を上演、その後講談師が登場する落語「軽業講釈」をご覧ください。レクチャーコーナーでは“講談”と“落語”の違いや特徴を分かりやすくご紹介します。講談「中山寺縁起物語」は地元宝塚ネタの演目。こちらも必見です!

かるわざ こうしゃく 落語「軽業講釈」あらすじ

伊勢参りに出た喜六と清八の二人。途中遭遇した神社の祭にはたくさんの見世物小屋が出ています。ひときわ立派な小屋は軽業(曲芸)の興行。華麗な綱渡りを披露し大いに盛り上がっています。その隣の小屋では講釈(講談)が始まりました。二人が見物していると、軽業も講談師もそれぞれ佳境に入って力が入り、せめぎ合いのバトルが…! ふんだんに「ハメモノ」(お囃子)が入ったとてもにぎやかな落語です。

出演者プロフィール

林家 染左 はやしや そめざ

落語家。宝塚市生まれ。96年、4代目林家染丸に入門。幼少より落語をはじめとした古典芸能に親しみ、大阪大学卒業後、泉佐野・郷土資料館学芸員から落語家に転身。その特異な経歴をいかし、「実感にもとづいた古典の表現を現代に活かせれば」と努力を続けている。07年、第44回なにわ芸術祭新人賞を受賞。日本舞踊、寄席囃子に不可欠な太鼓・笛の腕前にも定評がある。

笑福亭 智久介 しょうふくてい ちのすけ

神戸市生まれ。00年4月、笑福亭仁智に入門。師匠ゆずりの端正な語り口で、高座に華やかさを感じさせる。得意のマジックを応用した「マジカル落語」を演じるなど新たな試みにも積極的に挑戦し、海外公演でも高い評価を受けた。若手落語家の有望株として注目される一人である。

ゲスト 旭堂 南海 きょくどう なんかい

講談師。89年、3代目旭堂南陵に入門。97年、「咲くやこの花賞」(大衆芸能部門)を受賞。現在は宝塚市民カレッジ講師、宝塚市文化振興財団評議員をつとめ、朝日新聞の「勝手に関西世界遺産」を執筆するなど幅広く活動をしている。



宝塚ワシントンホテル

TAKARAZUKA WASHINGTON HOTEL



= Guest Room =

◆シングル: ¥7,969~

◆ツイン: ¥17,209~
(税・サービス料込み)

〒665-0845 宝塚市栄町2丁目2番2号
TEL 0797(87)1771 FAX 0797(86)2287
<http://www.takarazuka-wh.com>

◆ INFORMATION ◆

● カジュアルレストラン

シャンゼリゼ (1F)

営業時間 7:00~22:00

● 日本料理・しゃぶしゃぶ

鳥家 (2F)

営業時間 11:30~15:00
17:00~22:00

● レストラン&バー

ガスライト (8F)

営業時間 17:00~24:00

(36名様までご利用いただける小宴会場も、ご用意しております。)



交通のご案内

阪急宝塚駅前
JR宝塚駅より徒歩3分
大阪空港より車で約25分
中国自動車道・宝塚ICより約5分